



炬火を掲げていざ謳う

No.14



我々の泉鳥取

2022年9月5日(月)

編集・発行 泉鳥取高校 教頭(妻木)

大阪府阪南市緑ヶ丘1-1-10

<https://www.osaka-c.ed.jp/custom91.html>

施設秘話(1)

バカでかい職員室

— もともとは図書室の予定だった —

泉鳥取高校の職員室はB棟(特別教室棟)の3階にあります。大変広い部屋で、校内の部屋としては、視聴覚教室の次に大きい部屋になります。

通常高校の職員室は1階にあるのが普通ですが、なぜ泉鳥取では3階にあるのでしょうか?

創立当初に在籍されていた先生に伺うと、「すべての教室が一番見やすい部屋を職員室にした」ということのようにです。今の職員室は、設計段階では図書室として設計されています。現に、特別教室棟の平面プランが同



一の府立高校(東百舌鳥高校など)では、図書室として使用されています。そういう学校の職員室は、校長室の隣にあり、国語科・数学科・英語科などの教員と教務部員、教頭が入っていました。全員が一堂に会する職員室は、そもそも高校にはなく、職員室に座席のない先生は、各教科の準備室に居ました。

泉鳥取高校では、生徒とフロアの違う職員室では対応できないことが多かったこと、45人12クラス募集で教職員数が70名を超し、すべての教職員が生徒に対応するため、全教職員が一堂に会する職員室にすることを目的にしたため、どうしてもこれだけの床面積が必要だったということです。創立後20年くらいまで、大職員室には多くの生徒が集い、先生方とコミュニケーションを取っていました。「先生、しんどい。帰らせてよ」とか訴える生徒も多かったのですが、休み時間が終わると「次の休み時間も来るわ」…結局先生と話したいただけだったり。しかしながら、生徒との接触はこれでも十分ではなく、平成15年頃には学年生徒指導室を学年職員室として設置し、よりきめ細かい対応を目指すこととなりました。



職員室から見た一般教室棟

3階の平面図

